

平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年4月22日

代表者 石川 敬史

研究課題名	地域に図書館が移動する社会的意義と可能性に関する基礎的研究
研究期間	平成28年6月1日～平成29年3月31日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>本研究では、図書館が地域に「移動」という視点に立脚し、これまでに採択されたプロジェクト研究（移動する図書館概念の実践研究）並びに科研費成果（戦後日本の移動図書館史研究）の成果を踏まえながら、以下の「実態調査」と「実践的考察」の両面から、「移動」する図書館活動の社会的意義と可能性を検討した。</p> <p>(1) 【実態調査】移動図書館活動の史的連続性の解明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県内の全ての公共図書館（県、市町村）を対象に移動図書館活動の実態調査（質問紙調査）を実施（平成28年8月）し、現在の移動図書館活動の概要を明らかにした（回答率約97%）。 ・上記の埼玉県内における調査を踏まえながら、公共図書館において先導的な移動図書館活動の訪問調査を実施した（なお、プロジェクト研究費が大きく減額されたため、多くは私費にて訪問調査した）。埼玉県寄居町、小川町、伊奈町、川口市、千葉県富津市、館山市、神奈川県横浜市、東京都昭島市の各公共図書館における移動図書館活動を訪問調査した。姫路市、福島県、豊中市についてはメール等で質問調査を実施した。 <p>(2) 【実践的考察】「移動」する図書館活動の可能性への考究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県立朝霞西高等学校図書委員会と本学ライブラリーサポーターの交流会を実施した。ヒトハコ図書館やブックトラックを朝霞西高校図書館へ持ち込み、行政による移動図書館車とは異なる「移動」する図書館活動を実践した。 ・移動図書館の可能性を探るため、国際図書館連盟大会（アメリカ・オハイオ州コロンバス）のポスター発表に「Possibility of the book track to create a mobile library」と題してエントリーし、採択された。国外の移動図書館の可能性について、質問紙調査を行なった。 	
2. 研究の成果	
<p>本研究において「実態調査」と「実践的考察」の両面から研究を進めた結果、以下の点が明らかになった。</p> <p>(1) 埼玉県内の移動図書館実態調査（質問紙設計の段階で予備調査は川口市、新座市に依頼）によって、次のような特徴が明らかとなった。①県内で16館が移動図書館を実施、②40年以上も実施している図書館が約半数、③廃止の理由が「移動図書館の役割を終えた」と回答する傾向、④貸出用図書の積載が中心、⑤情報通信システムの貧困、貸出を中心とする活動などであった。また、各地の移動図書館訪問調査から、ステーション地の選定に苦慮しているものの、開始当初の方法を持続していた。必ずしも利用が多いとはいえず、「貸出」が中心の活動であった。こうしたことから、1970-1980年代の移動図書館活動の方法が現在も継続していたことがわかる。「図書館」が移動することが「移動図書館」であることから、活動方法を早急に改善する必要があるといえる。</p> <p>(2) 朝霞西高校との交流により、図書館が移動することとは、本やモノ（ブックトラック）が移動することのみならず、「人」も移動し交流することの重要性を実践的に明らかにすることができ</p>	

た。また国際図書館連盟大会では、質問紙を用いて移動図書館は何を運ぶかの問いについて、① Wi-Fi 環境、②司書などの回答が多く、図書館の理念の差異が表出した結果となった。

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

本研究において公表した成果は以下の通りである（これまでの研究成果を踏まえた内容も含まれている）。

（1）記事，論文

・石川敬史「歌詞から読む移動図書館（移動図書館の足音，第5回）」『図書館車の窓』(108) p4-6
2017年2月

・石川敬史「躍動する戦後東京の図書館づくり」『大都市・東京の社会教育：歴史と現在』東京都社会教育史編集委員会編，小林文人編集代表，2016.9，p.237-256.

・石川敬史「移動図書館巡回前夜（移動図書館の足音，第3回）」『図書館車の窓』(106) p5-6，2016年8月

（2）講演会，研究発表

・石川敬史「移動図書館の世界へようこそ！」木つつ木バスフェスティバル，日本バス友の会，2017年4月15日

・石川敬史「移動する読書空間：にぎやかな戦後図書館物語」『平成28年度新座市内大学公開講座第3回「文字と声のはざま～音声表現の文化史～」』2016年11月5日

・石川敬史「埼玉県における移動図書館実態調査の予備的考察」『日本社会教育学会第63回研究大会』2016年9月17日

・Possibility of the book track to create a mobile library, World Library and Information Congress: 82th IFLA General Conference and Assembly (Poster Session) 2016年8月15日

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	
研究課題名	地域に図書館が移動する社会的意義と可能性に関する基礎的研究
研究代表者	石川 敬史
研究期間	平成 28 年 6 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	石川敬史「埼玉県における移動図書館実態調査の予備的考察」『日本社会教育学会第 63 回研究大会』2016 年 9 月 17 日, 弘前大学 ISHIKAWA, Takashi, Possibility of the book track to create a mobile library, World Library and Information Congress: 82th IFLA General Conference and Assembly (Poster Session) 2016 年 8 月 15 日, USA, Ohio	無
発表予定		

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	論文ではないが簡単な記事を執筆した。 石川敬史「歌詞から読む移動図書館(移動図書館の足音, 第 5 回)」『図書館車の窓』(108) p4-6, 2017 年 2 月. 石川敬史「移動図書館巡回前夜(移動図書館の足音, 第 3 回)」『図書館車の窓』(106) p5-6, 2016 年 8 月.	無
投稿中 投稿予定	石川敬史「埼玉県における移動図書館実態調査の予備的考察」『十文字学園女子大学紀要』2017.	有

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	石川敬史「躍動する戦後東京の図書館づくり」『大都市・東京の社会教育: 歴史と現在』東京都社会教育史編集委員会編, 小林文人編集代表, エイデル研究所, 2016.9, p.237-256.
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	石川敬史「移動図書館の世界へようこそ!」木つつ木バスフェスティバル, 日本バス友の会, 2017年4月15日, ふじみ野市役所駅前出張所 石川敬史「移動する読書空間: にぎやかな戦後図書館物語」『平成28年度新座市内大学公開講座第3回「文字と声のはざま～音声表現の文化史～」』2016年11月5日, 十文字学園女子大学.
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名
2017	科学研究費補助金(基盤研究C)「地域と伴走して教育文化運動へつないだ戦後移動図書館活動の実証的研究」(17K04640), 研究代表者.